

# 親水施設に関する研究

## 1. はじめに

近年、人々の意識は潤いと安らぎのある生活など精神的、情緒的満足感を求める方向にあり、豊かな自然と触れ合う、美しい景観を見るなどの水辺空間の役割が大きくクローズアップされている。また今後は、余暇時間の増大や本格的な高齢化社会の到達などにより、河川空間の利用志向は一層高まるものと予想される。

しかしながら、このような背景の中で、親水施設の計画、設計面での思想や方法論が確立されておらず「地域らしさ」、「川らしいデザイン」など河川の本来あるべき姿を認識した親水施設の整備事例は少数ない。

このため、本研究に於いては河川空間に親水施設の整備にあたる担当者を対象に、人々が本当にゆとりと潤いを感じて、落ちついて伸びやかに、楽しく過ごすことの出来る川らしい水辺空間を創造する方法を示したガイドライン(案)を作成することを目指した。

## 2. ガイドライン作成上の課題

ガイドライン作成を目指す場合、目次構成としては、施設整備を行う場合のフローとして、計画から始まり、設計を行い、施工後の維持管理というのが一般的であるため、これに沿った整理をした方がよりわかりやすいということと計画、設計、維持管理の3つを大きな柱立てとすることとした。既往資料調査や、文献調査などを行い検討した結果、次のような課題を抽出することができた。

### (1) 全般的な事項として

- ① 具体的な目次構成、内容について
- ② 親水、親水施設、親水活動の整理
- ③ 誰を対象としたガイドラインとするか

### (2) 計画上の事項として

- ① 親水施設について、水辺の魅力や地域特性を活かした計画にするにはどうするか
- ② 計画策定は、どのような調査を行い、どういった手順

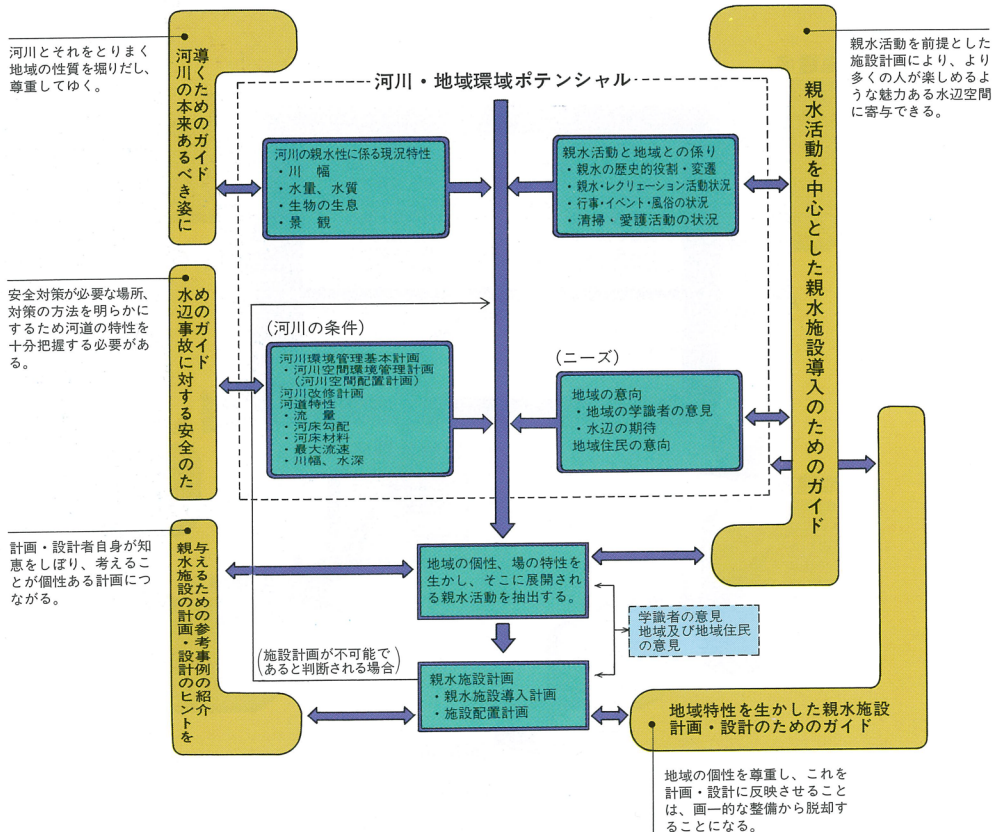


図-1 計画の枠組み

を踏むか

③水辺を安全で魅力ある空間にするためにはどうするか

(3)設計上の事項として

- ①設計する場合の基本的事項の整理
- ②利用者が無理のない動作で使用できる考え方と構造
- ③設計サイドの治水面、水辺事故防止の観点からの安全面への配慮

(4)維持管理上の事項として

- ①メンテナンスを行う際の基本的事項の整理
- ②河川空間に潤いをかもし出す植物のメンテナンス
- ③施設周辺での安全対策への配慮

3. 課題に対する検討内容

ガイドライン作成上の課題について、既往資料の調査、文献調査、事例調査などにより検討を行ってきたが、詳細については、現在検討中である。全般的な事項、親水施設の計画、親水施設の設計、親水施設の維持管理について、これまでの検討結果は、次のとおりである。

(1)全般的な事項

このガイドラインは、利用者が落ちついて伸びやかに楽しく、散策や水遊びなどの親水活動の場として利用できるように魅力ある親水空間を創造・再生していくための参考となる内容とし、親水施設の計画、設計、維持管理に携わる河川管理者や公園管理者等の手引き書として使用されることを目指すものである。「親水」については、文献を調査すると水遊び、魚釣りなどのレクリエーション機能として狭義に解釈したり心理的、情緒的満足などを包含する幅広い概念で使ったりなど、それぞれ差異が見られるので、ここでは「親水活動」とは、河川空間の中で散策、スポーツ、水遊び、釣りといったレクリエーション及び景観を通して心理的、情緒的満足が得られる活動と定義することとした。したがって、「親水施設」は、「親水活動」のための施設全般をさすが、本ガイドラインにおいては、河川事業、公園事業などの公的整備により河川区域に設置される施設を取り扱うものとする。

(2)親水施設の計画

親水施設の計画にあたっては、①水の流れや水辺の開放など、水辺の魅力を活かす、②「誰が」「何を」「いつ」「どこで」行うのか、川ならではの親水活動の設定を幅広く捉える、③川づくりとまちづくりの一体化により、「おもて」の空間となるような川を中心としたものとする、④それぞれの川の「川らしさ」、その川の流れる「地域らしさ」を水

辺の風景に反映させる、⑤せせらぎの音を聴いたり、ふるさとのにおいを嗅ぐというような人間の5感に訴えるような配慮すると共に、計画の手順、計画上の留意点についても考慮する。

1) 計画の枠組み

計画の策定にあたり、河川の魅力や地域特性を活かした計画にするためには計画対象地域の親水生の特性、地域の自然・社会環境のポテンシャルの把握、地域のニーズ、河川の治水特性、上位計画との整合などから親水活動を抽出することが必要であり、それには図-1に示す枠組みに基づくことが望ましい。

2) 計画上の留意点

計画上の配慮事項としては、①河川の魅力の抽出、②親水活動の設定、③施設計画の3つの事項について配慮する。①は当該河川の魅力を抽出することであるが、河川の魅力は、図-2のように分類できるので、これに沿って整理する。

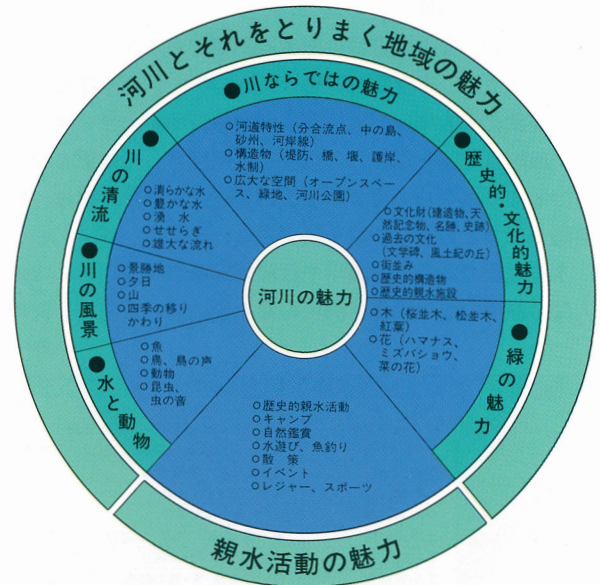


図-2 河川の魅力～構成と要素

②の親水活動を考えた河川整備を行う場合には、親水活動の内容を考えて行動の組合せを想定した施設整備計画を立てるものとする。親水活動の魅力をそれぞれのタイプ(型)に分けて設定すると表-1に示すとおりである。

③の親水施設計画を立てるにあたっては、施設配置計画、施設計画に留意する必要がある。親水施設は親水活動をサポートするもので、落ちついて伸びやかに楽しく利用する

ためには施設を複合化することが重要である。

### (3) 親水施設的设计

親水施設的设计にあたっては、親水施設が河川の特性を活かし、遊園地主義や個別環境再現主義に陥らないよう配慮し、次の事項に配慮するものとする。

- ①あくまでも人間の活動をサポートするための施設とする。
- ②それぞれの水辺には、在来種がありこれを基調とするなど生態学的合理性
- ③周辺の歴史・風土との調和
- ④洪水時にも親水施設が流出したりしないなど河川工学的合理性
- ⑤周辺環境と調和するなど形と素材の合理性
- ⑥川の自然を生かすなどのために、自然環境の改変を最小化
- ⑦無理なく使うことができるといった利用の快適性
- ⑧維持管理を含めたトータルコストを考えた経済性及び管理の容易性

このほか、安全面等での配慮も必要である。

安全面では、水深及び流速が大きい場所、水衝部などミオ筋が変化する場合、直立護岸で水位変動が大きい場所など一般的に危険と思われる箇所には原則として設置しないものとする。やむを得ず親水施設を設置する場合には、転落防止柵などの安全対策を講ずるものとする。

水際施設である階段護岸や緩傾斜護岸的设计においては、人間の無理のない動作、河川の親水性に係わる特性、河川

の治水特性を十分考慮するものとする。

### (4) 親水施設の維持管理

親水施設の維持管理にあたっては、①河川管理者と地元(市町村)との役割分担(維持管理体制)をどうするか、維持管理協定締結などによる親水施設管理者の明確化(河川管理者と施設管理者)、②出水期前のメンテナンスを踏まえたトレーニング等の出水時への配慮、③平常時のトラブル伝達や連絡体制など情報伝達に対する配慮、④河川愛護団体等の育成と活用の基本的事項について配慮すると共に、植物の経年管理や施設周辺の安全対策等にも配慮することが望ましい。

植物の経年管理は、河川空間には植物が繁殖しており、多くの利用者にとって潤いや安らぎを与えてくれることから、常に良好な状態を保持することが必要である。このため、選定、施肥、除草、倒木撤去といった管理が重要となる。

親水施設周辺の安全対策としては、万が一転落事故が発生したとしても、自力で脱出できるような方策として階段とか、足掛け金具の設置、あるいは、他者による救助救出の方策として、陸上にロープ付きの浮き輪や救助用の棒を用意しておく等の検討をしておくことが望ましい。

## 4. おわりに

本研究を進めるにあたり、日本大学の桜井慎一氏並びに(株)アルゴ都市設計の長屋静子氏を初め、土木研究所の宇多島谷室長などの方々に貴重なアドバイスを戴いたことをここに感謝いたします。

表1 活動分類

タイプ	活動の種類	活動の内容	行動及び行動の組み合わせ(例)
ワイルド型	キャンプ型	自然の中で宿泊を中心とした活動	バーベキュー、キャンプファイヤー、花火、宴会、水遊び、水泳、釣り、カヌー、散策、ハイキング、魚・虫捕り
	デイキャンプ型	自然とのふれあいを中心とした活動	バーベキュー、散策、水遊び、釣り、飲食、ハイキング
	アクティブ型	自然を対象に体を積極的に動かす活動	沢登り、溪流釣り、観察、写真、飲食、カヌー
自然観賞型	ウォッチ型	自然を静かに観賞する	バードウォッチング、飲食、写真、写生、釣り
	ハイキング型	自然の中を歩く活動	ハイキング、ピクニック、写真、飲食
	アクティブ型	自然を対象に体を積極的に動かす活動	沢登り、溪流釣り、観察、写真、飲食、カヌー
身近な自然指向型	小川水遊び型	せせらぎ等の水遊び	水遊び、笹船流し、魚・虫捕り、ザリガニ捕り
	土手遊び型	高水敷・堤防での原っぱ遊び	草摘み、虫捕り、土手すべり
	魚・虫捕り型	網を使つての魚・虫捕り	釣り、魚・虫捕り、トンボ捕り、ザリガニ捕り、オタマジャクシ捕り
	生物観察型	身近な植物・魚・鳥の観察	写真、写生、散策、休憩、餌やり、ホテル観賞
散策型	健康型	日常的に健康を目的として歩く	長い距離を歩く、見る
	気分転換型	気分転換を目的とした散策、休憩	ぶらぶら歩く、見る、寝ころぶ、飲食、座る、温泉、温泉旅館
	デート型	アベックのデート行為	歩く、座る、語る、飲食
	八景型	場所時間が限定された景観を楽しむ	歩く、座る、語る、集う、写真、写生
	探訪型	史跡・名勝等魅力ある所を訪ね歩く	歩く、座る、語る、集う、写真、写生、知る、土産物
イベント型	伝統行事型	河川で行う伝統行事	祭り、信仰、灯笼流し、流し籠、鶴飼、ヤナ
	イベント型	多数の人々が集う活動	タコ上げ大会、コンサート、マラソン大会、イカダ下り大会、カヌー大会
	年中行事型	年中・季節的行事	花火大会、芋煮会、花見、紅葉狩
レジャー・スポーツ型	遊覧型	水面で受動的に利用	遊覧船、屋形舟、水上バス、川下り
	水面スポーツ型	水面を能動的に利用	ボート、カヌー、レガッタ、ウィンドサーフィン、ジェットスキー、水上スキー
	水際線利用型	水際線を利用	釣り
	高水敷グラウンド型	グラウンド利用のスポーツ	球技、乗馬、トレーニング
	高水敷空間型	空間利用型のレジャー	タコ上げ、ラジコン、モトクロス、オフロード車、菜園
堤防型	堤防利用の縦断的活動	サイクリング、マラソン、ジョギング	